

大宰大監大伴宿禰百代ら、
駅使に贈る歌

二首

五六六番

草枕くさまくら 旅行たびゆく君きみを 愛うるはしみ たぐひてそ来こし
志賀しかの浜はま辺へを

五六七番

周防すはにある 磐国山いはくにやまを 越こえむ日は 手た向むけよく
せよ 荒あらしその道みち

大宰帥大伴 卿、大納言に任せられ、

京みやこに入いらむとする時に、府つかさの官人つかさびとら、卿まへつきみ
を筑つくし前の国のみちの蘆城あしきの駅はゆまうまや家にせん餓うする歌四首

五六八番

み崎廻さきみの 荒磯ありそに寄よする 五百重波いほへなみ 立たちても居ゐ
ても 我あが思おもへる君きみ